

株主のみなさまへ

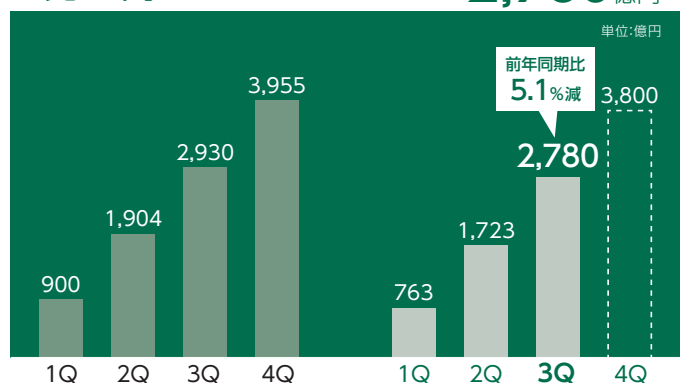
第17期 第3四半期 決算のご報告

2020年4月1日から12月31日まで

連結業績ハイライト

売上高

2,780 億円

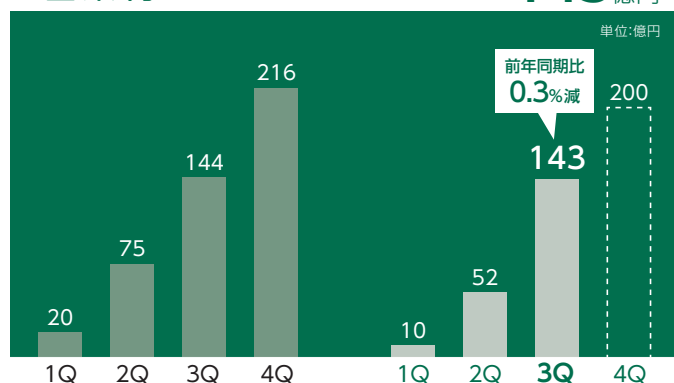


2020年3月期

2021年3月期

営業利益

143 億円



2020年3月期

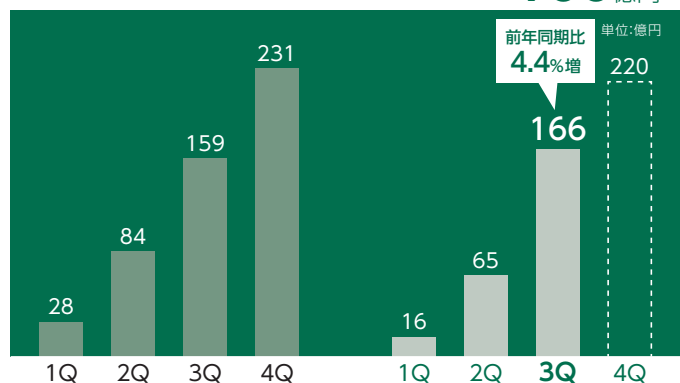
2021年3月期

のれん等償却前営業利益
(2021年3月期3Q)

160 億円 (前年同期比0.2%減)

経常利益

166 億円

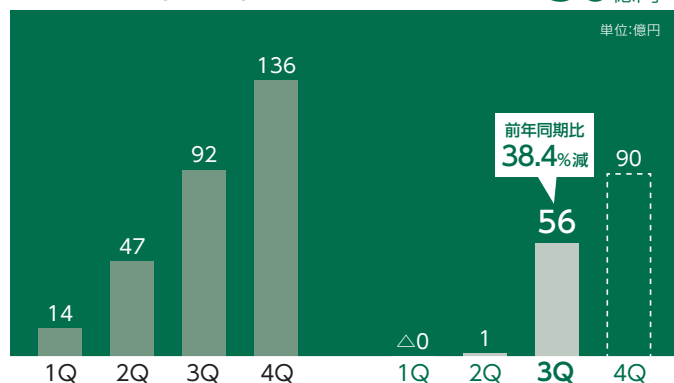


2020年3月期

2021年3月期

親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

56 億円



2020年3月期

2021年3月期

のれん等償却前親会社株主に帰属する
四半期純利益(2021年3月期3Q)

72 億円 (前年同期比38.4%減)

【当期の見通し】

連結業績予想につきましては、主として国内外において自動車補修用販売が好調に推移しており、2020年11月6日に公表した業績予想から売上高は据え置き、営業利益は40億円、経常利益は50億円、親会社株主に帰属する当期純利益は20億円の上方修正を行っております。

売上高は前年同期比5.1%減、営業利益は国内外の自動車補修用販売が堅調であったこともあり、前年並みにとどまりました。

TOP MESSAGE



当第3四半期連結累計期間における世界経済は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、景気が大幅に悪化しました。段階的に経済活動が再開しており、回復が見られるものの、冬季に入り再び感染者が大幅に増加しており、先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況の中、当社グループでは、主として国内外の自動車新車向け鉛蓄電池や、プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が減少したことなどにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,780億16百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて150億60百万円減少(△5.1%)しました。営業利益はこの売上減に伴う減益要因がありましたが、国内外の自動車補修用販売が堅調であったこともあり、143億83百万円(のれん等償却前営業利益は160億78百万円)と前第3四半期連結累計期間に比べて37百万円減少(△0.3%)にとどまりました。一方、経常利益は為替差益の計上や支払利息の減少等の営業外収支の改善により、166億23百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて6億99百万円増加(4.4%)しました。これに対し、親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金費用が増加したことに加え、連結子会社における減損損失を27億60百万円計上したこともあり、56億67百万円(のれん等償却前親会社株主に帰属する四半期純利益は72億56百万円)と、前第3四半期連結累計期間に比べて35億36百万円減少(△38.4%)しました。

連結業績予想につきましては、主として国内外において自動車補修用販売が好調に推移しているものの、新型コロナウイルスの影響によりバックアップ用電池電源装置や特殊用電池の販売減少を見込み売上高は、据え置き、営業利益は、自動車補修販売の増加および鉛価格の下落影響に加えて、ハイブリッド車用リチウムイオン電池の生産性向上や全社費用の削減などにより40億円の上方修正を行っております。

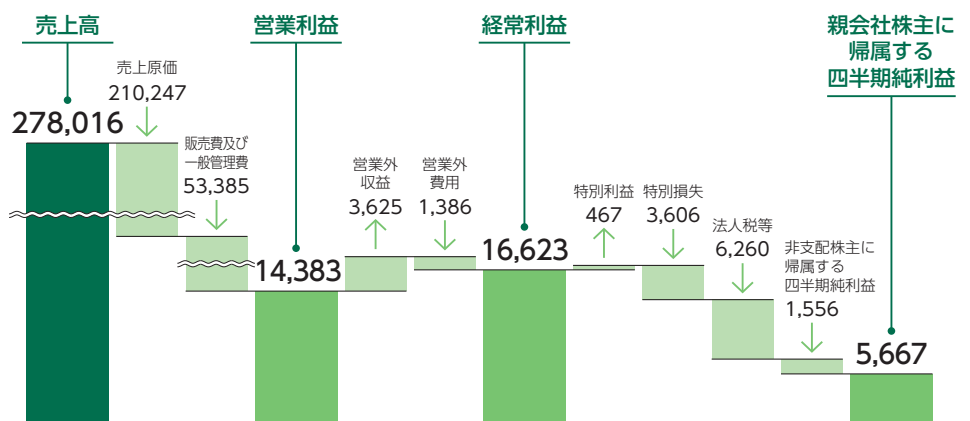
なお、配当予想につきましては、今回の業績予想の修正を踏まえ、期末配当金につきましては、前回予想の35円から5円増額して、1株当たり40円に予想を修正します。

代表取締役
取締役社長 村尾 修

連結損益計算書

[当第3四半期(累計)] (2020年4月1日~12月31日)

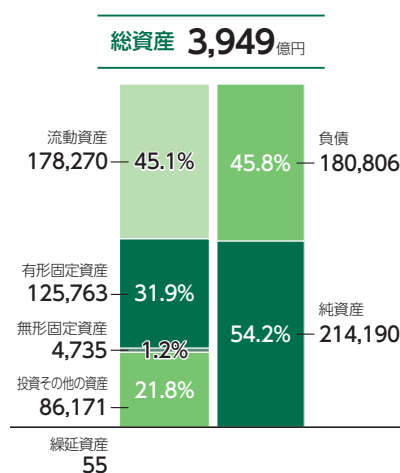
(百万円)



連結貸借対照表

[当第3四半期末] (2020年12月31日)

(百万円)



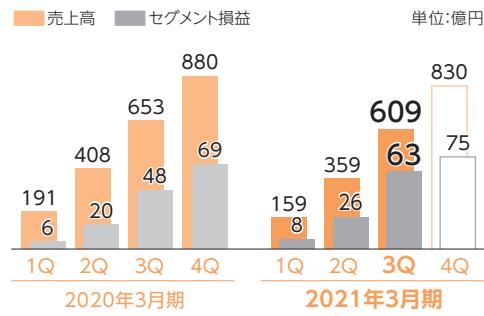
繰延資産
55

[セグメント別連結業績]



売上高
609億円

構成比
21.9%



売上高
前年同期比
6.7%減

補修用需要は堅調に推移したものの、新車用販売数量の減少に加え、鉛価格の下落に伴う販売価格の低下の影響により減少。

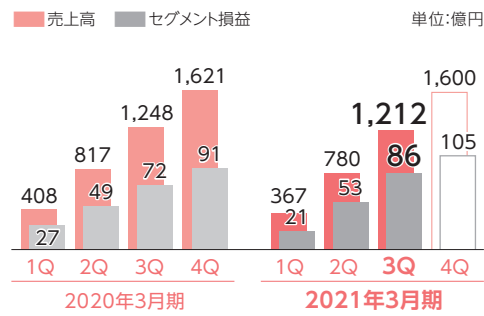
セグメント損益
前年同期比
32.4%増

補修用販売増加により増加。



売上高
1,212億円

構成比
43.6%



売上高
前年同期比
2.9%減

各国における新型コロナウイルス感染拡大の影響により販売が減少したことに伴い減少。

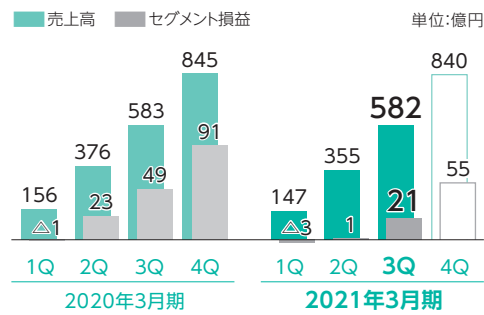
セグメント損益
前年同期比
19.1%増

豪州やアセアンを中心に四輪用の補修用販売数量が増加したことに加え、鉛価格の下落や経費減少などの影響により増加。



売上高
582億円

構成比
21.0%

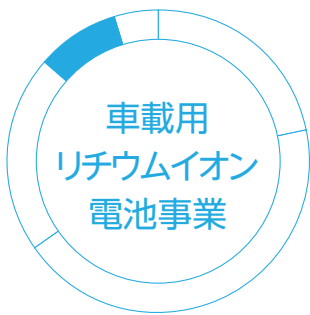


売上高
前年同期比
0.2%減

大型風力発電用リチウムイオン電池の納入開始による増加はあったものの、主として通信事業者向け電源装置が一巡したこと、およびフォーリフト用電池の販売減少により減少。

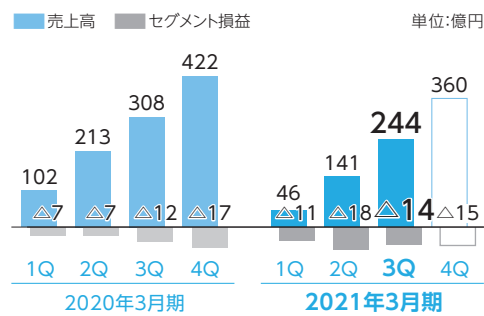
セグメント損益
前年同期比
56.5%減

売上構成の変化により減少。



売上高
244億円

構成比
8.8%



売上高
前年同期比
20.8%減

ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売は増加したものの、プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が減少したことに伴い減少。

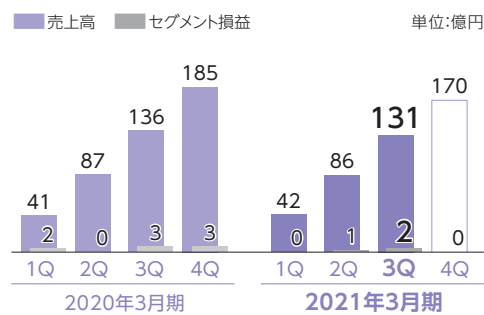
セグメント損益
前年同期比
—

売上高減少の影響により悪化。



売上高
131億円

構成比
4.7%



売上高
前年同期比
3.9%減

主として航空機用リチウムイオン電池の販売が減少したことに伴い減少。

セグメント損益
前年同期比
19.0%減

前年同期に比べて減少。

(注) セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。

TOPICS 1

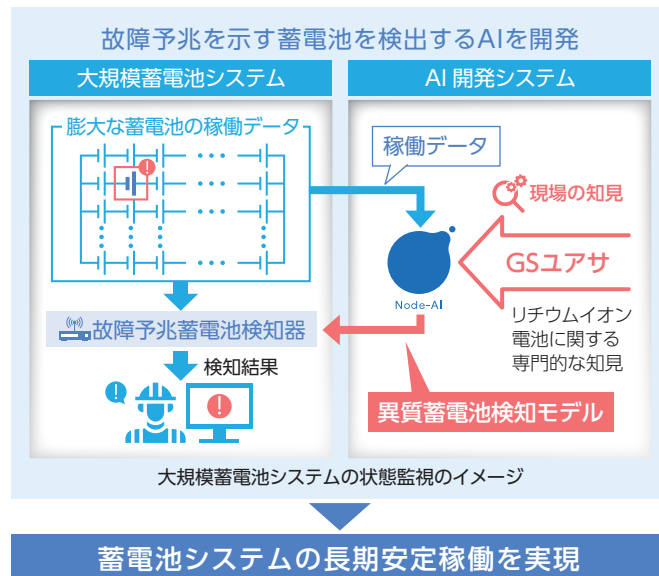
AIによる蓄電池システムの故障予兆検知技術の開発に成功 ～脱炭素社会の安心・安全・安定したインフラ提供に貢献～

蓄電池システムの大規模化などが進むなかで、リチウムイオン電池を安心・安全・安定して運用するための故障予兆検知技術に対するニーズはますます高まっています。

この度、株式会社 GSユアサがリチウムイオン電池を活用した社内設備の蓄電池データを提供し、NTTコミュニケーションズ株式会社がAI技術の一種であるディープラーニングを用いた時系列データ解析技術*を提供することにより、2020年12月、AIによる蓄電池システムの故障予兆検知技術の開発に成功しました。

この技術の開発により、偶発故障の可能性のある蓄電池と正常な蓄電池とを判別し、故障の予兆を数カ月前に検知できるため、一部の蓄電池のみを交換することや、省人・効率化した環境で大規模システムの監視が可能になります。

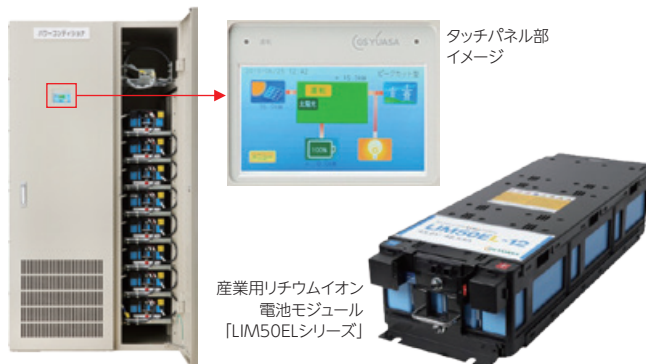
*本AIは、NTTグループのAI「corevo®(コレボ)」を構成する技術です。「corevo®」は日本電信電話株式会社の商標です。



TOPICS 2

三相連系蓄電システム「三相ラインバックマイスター」を発売

●三相ラインバックマイスター(蓄電池容量17.6kWhの場合)



産業用リチウムイオン電池「LIM50ELシリーズ」を搭載し、定格出力10kVA/20kVAに対応。平常時には再生可能エネルギーの自家消費やピークカットによる電力コストの削減、非常時には特定負荷のバックアップなど、さまざまな場面で活用できます。また、EV用充電器との連携やバーチャルパワープラント(VPP)*など、幅広い用途への応用が可能です。

※VPP(Virtual Power Plant)

多数の小規模な発電所や、電力の需要抑制システムを一つの発電所のようにまとめて制御を行うこと。「仮想発電所」とも呼ばれています。

■ 会社概要 (2020年12月31日現在)

商号 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
(GS Yuasa Corporation)

事業目的 電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。

設立 2004年4月1日

資本金 33,021百万円

本社所在地 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地
電話(075)312-1211

ホームページ <https://www.gs-yuasa.com/jp>

上場金融商品 東京証券取引所 市場第一部

当社の株主・投資家情報サイトが
各社IRサイトランキングで表彰されました!



<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/>



こちらから
アクセスできます。

